

労協連だより

衆院選の結果を背景に、いよいよパブリックビジネスに民間営利企業が群がる構造が作られようとしている。「官から民へ」は、非効率と高品質を担保する合言葉のように一人歩きしている。肝心の「公共」概念が曖昧なまま、金と力がものを言う時代が到来しようとしている。我が愛する阪神タイガースもその渦中に身を置いている。株式を公開し、ファンの球団にということは、大量の株を保有する、富める者の手にタイガースが渡る、ということではないのか。いっそのこと、協同組合方式の、出資口数の多寡に関わりない球団の誕生を目指すほうが、よっぽどファンのためになるようにも思うのだが。

ブロックごとの自治体行動・企画提案学習会も、東北・九州・関西・中四国と4ヶ所で開催され、残すところ関東甲信越東海のみとなった。全国規模の会議形式から、ブロックベースの集まりに切り替えた成果が出始めている。物理的な身近さもあるが、丁寧かつ具体的な課題検討や展望を探り合う場として、定期開催を望む声が多い。また、連合会本部として十分掘みきれていなかった、各組織の実態や問題意識にも触れることができ、連合会全体・本部と連携した取り組みに発展する可能性が出てきている。

会議の中で強調しているのは、東京を始めとする各地の成果を、余すことなく自治体へ伝える努力、新しい事業分野で自分たちに力やノウハウがなくても、全国連帯の

古村伸宏（日本労協連・事務局長）

中で必ず現実可能な支援ができること、これまでの狭い自治体との付き合いを越えて、あらゆる部署に協同労働の全国実績を伝える努力などである。参加者には、「センター事業団の企画書はもらえないのか」「〇〇の分野の参考になる企画書はないか」といった声もある。こうした声には、安易に情報は提供しない、ということをお願いしている。公募されているから手を上げる、今の仕事が指定管理に変更になる、など目の前の取り組みとしてやるのであれば、せつかくの全国の成果を基にした企画が台無しになるということである。場当たりの、あるいは防衛的に挑戦するのではなく、その仕事に挑戦する意味を問い、ひいては自らの組織の社会的価値を問うことの中で、企画作り挑戦してほしい、ということである。この基本認識・基本戦略を明確にしてくれば、喜んで企画書モデルも提示する、と申し上げている。総会で掲げた「新しい公共を担う協同労働」という課題を具体的に描き、そのためのプロセスやそれぞれの役割にひきつける討議こそが、取り組みを本物に、組合員にも本物のビジョンを示し、参加を加速していくように思う。こうした点で、ブロック学習会は刺激と決意を生み出している。

自立塾が縁で、文科省が今年度より取り組んでいる中学校での「キャリア教育」「職場体験」の一環として、千葉県・四街道西中学校に行く機会を得た。2年生約200名に「仕事とは」というテーマで講演するというも

のだ。高齢者・障害者の分野での仕事おこしと並んで、子育ての分野が爆発的に増加している昨今、若者の自立支援という課題に直面し、そして中学生へのアプローチとつながったわけだが、話の内容はともかく、協同労働が担う新しい公共の分野が、また一つ立ち表れていくように思う。文科省は、コミュニティスクールという新しい学校のあり方も始めている。また、大学発仕事おこしも継続していることから、子供から社会人にいたる、いわゆる社会の一員としての育ちを継続的に支援する仕事を、協同労働が

担う時代が近づいてきたように思う。教育という狭い範囲ではなく、もっと本質的な営みとなる予感がする。我々の運動は、「何故生きる」「どう生きる」という領域へ接近してきた。そして、それを現実化する仕事おこしやその場作りは、自治体との関係作りや新しい公共を担う取り組みの本格化を意味する。社会の中心で協同労働が叫ばれる時代、その未来の予感こそが、私の元気の源であり、日々の子育ての格闘もそんな自分を顧みる貴重な営みである。

研究所たより 研究所たより

協同総合研究所では、会員の研究・実践の交流を深めていくために、各地域ごとの会員研究会を行います。

関東地域では、9月に行ったイギリス調査から、サンダーランドの社会的企業グループの活動と、ロンドンの「アカウント3」のマイクロクレジットの活動とを事例にして、社会的企業の日本での可能性について探るという企画です。また10月のイタリア協同組合視察から帰国直後の真新しい情報も聞

きます。

関西地域では、「障害のある人の仕事おこしと協同労働」をテーマに、NPO大阪障害者雇用支援ネットワークの皆さんのご協力の下、協同の仕事おこしの実践を行っている方々よりご報告をいただき、研究・交流を深めたいと思います。

協同総研の会員・非会員に関わらず、ぜひご参加ください。

● 関東地域会員研究集会

■日時：10月29日（土） 13:00～16:00

■会場：明治大学研究棟4階第1会議室

■内容：

開会挨拶：協同総研 中川雄一郎理事長

特別講演：「地域再生をめざす社会的企業とILO」(仮題)堀内光子さん（ILO駐日代表）